給食センター建設時期は

31年度中に建設したい

問 給食センター建設は町長の選挙公約である。計画から建設までのタイムテーブルは。

佐藤町長 給食センター建設は山田中学校グラウンドに計画しており、中学校の代替グラウンドは町民グラウンドを予定している。現在建設に向けて情報や資料を集めており、仮設住宅撤去や集約化を見据えながら進めたい。

問 難問を抱えているが、給食センター建設は町長の町民に対する公約。任期中に必ず建設されるものと考えてよいか。

甲斐谷副町長 30年度に町民グラウンドの仮設住宅一部撤去、31年度に給食センター建設、32年度に試験運用ができるように努め、選挙公約が果たせるようにしたい。

田村剛一議員
（未来クラブ）

その他の質問

- ◆誘致企業に対する支援を
- ◆総合戦略の28年度事業は
- ◆町の活性化策は
- ◆学校の統廃合の検討を
- ◆住宅未決定者の相談を

山田高校の存続発展支援を

関係機関と連携し進める

問 県立高校があるかどうかで町のイメージも変わる。山田高校存続発展のため、町は思い切った支援策を考えたらよいと思うがどうか。

町長 山田高校は本町における高等教育機関。地域貢献、地域活性化の面からも重要である。関係機関と連携しながら支援していきたい。

問 岩泉町や西和賀町では町を挙げて地元高校育成のため進学支援、奨学金給付などさまざまな支援を行っている。本町で同様の支援をできないか。

町長 本町の中学生の約8割が山田高校以外の学校に進学している状況であるので、このような状況で山田高校一校に特化した支援は難しいと考える。

創立90周年を迎える県立山田高校

民間感覚での行政成果は

町民の判断に委ねる

問 民間感覚での町政に町民の期待もある。民間感覚でどのような成果が上げられたか。

町長 民間感覚の基本は町民ニーズに応えること。私のみならず職員一人一人がお客様目線を意識して働くことである。

「民間感覚を行政に」とは政策決定や事業実施に対する基本的な考え方である。その成果については町民の判断に委ねられていると考えている。

問 民間感覚という言葉は佐藤町長が初めて使った。役場職員はその意味を理解し職務に当たっているか。

甲斐谷副町長 幹部職員の会議でも先例主義を排し、自由に物が言えるようになった。

事業選択でも理論に基づく実施決定の他に、町長自身が必要と考えるものから手を付けている。この辺が民間感覚ではないか。